

令和4年度（第2回）山鹿市総合教育会議 議事録

日 時	令和5年2月22日（月） 9時30分
場 所	山鹿市役所（4階401会議室）
出席者	早田市長、堀田教育長 教育委員：野中委員、上田委員、野口委員、立山委員 市職員：大林総務部長、渡邊教育部長、園田教育部次長、吉野首席教育審議員、 佐藤教育総務課長、田崎学校教育指導室長、山西学校教育指導室審議員、 黒木学校教育指導室審議員、淵上学校施設課長兼学校規模適正化 推進室長、井上社会教育課長、西島社会体育課長、豊田子ども課長、徳 永教育総務課総務企画係長
傍聴者	なし

1 開 会

2 議 題

「選ばれる山鹿」の教育について

3 その他

4 閉 会

発言者	発言内容
-----	------

<p>徳永教育総務課総務企画係長</p>	<p>令和4年度第2回山鹿市総合教育会議を開催します。</p> <p>開会に際しまして、議題と会議の公開の可否について確認します。</p> <p>本日の議題は、「選ばれる山鹿の教育について」となっております。</p> <p>この議題につきましては、非公開とすべき事由がないことから、本日の会議、及び議事録につきましては公開といたします。</p> <p>また、会議の時間は、1時間程度を予定しておりますので、ご協力の程よろしく申し上げます。</p> <p>なお、本日の傍聴者の方はおられません。</p> <p>それでは議題に入ります。早田市長に会議の議長をお願いします。</p>
<p>早田市長</p>	<p>皆様、おはようございます。</p> <p>本日は第2回山鹿市総合教育会議にお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。また、日ごろから山鹿市の教育全般についていろいろご意見をいただいていることに感謝申し上げます。</p> <p>本日の議題は、「選ばれる山鹿の教育」となっておりますので、皆様方からのご意見をいただければと思いますので、よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、まず事務局より説明をお願いします。</p>
<p>大林総務部長</p>	<p>お手元に配布している資料により、「選ばれる山鹿に向けた戦略的な人口減少対策」についてご説明します。</p> <p>まず、1枚目をご覧ください。「本市の人口減少と今後の対策」についてです。</p> <p>人口の現状としまして、国勢調査による我が国の人口は、2010年が1億2,806万</p>

人でしたが、直近の2020年には1億2,615万人となり、191万人の減少、率にしてマイナス1.49%でした。つまり、1年間に19万人以上少なくなっています。これは県内第2位と3位の八代市と天草市を合わせた人口(198,850人)に相当します。

国の人口ビジョンでは、2060年には9,284万人まで落ち込み、40年間で3,330万人減少すると見込まれています。

一方、山鹿市はどうかと言いますと、国勢調査人口は、2020年調査で5万人を割り込み、49,025人でした。10年間で6,366人減少し、減少率はマイナス11.49%に達しました。これは菊鹿地域の人口(5,303人)を1,000人上回る人数に当たります。こうした状況から本市の人口ビジョンは、2060年には35,000人まで減少すると見込んでいます。

つまり、今後、国全体も人口が減少していきませんが、本市は国を上回るスピードで人口が減少することが確実であり、劇的な国家政策でも打ち出されない限り、もはや人口規模の縮小は避けられないといえます。

そこで、こうした前提に立ち、本市では2つの戦略的視点から人口減少に対処することとしています。

1つ目が「人口減少のスピードを抑制」すること、2つ目が「人口減少社会にあっても持続可能な社会を構築」することです。この2方向から人口減少という難題に同時にアプローチする施策を戦略的に展開することで本市の魅力と知名度を高め、市内外の方々が山鹿を選ぶきっかけにしたいというのが、「選ばれる山鹿に向けた戦略的な人口減少対策」の趣旨であります。

2枚目をお願いします。「本市における人口減少対策の全体像」についてです。

人口の定着を図ることが即ち「選ばれる山鹿」の目的ですが、それに至る2つの道、つまりアプローチを完成させるためには、そのプロセス内にパーツをしっかり組み込むことが必要です。そこで、人口減少対策の手立てとして、2つのアプローチにそれぞれ3つのパーツ、すなわち、関係人口や交流人口の増加策、市外からヒト・モノ・カネを呼び込む取組、市民や企業を引き留める取組、社会インフラの整備、行政サービスの効率化、地域社会・経済の維持発展に向けた取組の、合計6つのパーツを用意しました。令和5年度当初予算には事業費ベースで総額10億6,790万2千円を計上しています。

次に、これらをカテゴリーとして具体的な施策・事業を整理したのが3枚目の一覧表です。この中には市民の間でも期待と関心が高い、TSMC関連事業については白抜きのTマークで表示しています。

教育部関係の主な施策・事業では、左下の「市民・企業に留まってもらうための取組」として、「子どもたちの郷土愛と誇りを育む事業」「山鹿創生塾（学びの場づくり事業）」のほか、右上の「社会インフラの整備」として「学校給食施設再編整備事業」「弓道場整備事業」、また、右下の「地域社会・経済の維持、発展に向けた取組」として「持続可能な部活動推進事業」「スポーツ推進事業」を予定しています。そして、これらの施策を推進するための財源確保のために、ふるさと納税5億円の獲得を目指すこととしています。

以上で説明を終わります。

佐藤教育総

続きまして、事前配布資料の4ページ「選ばれる山鹿」の教育取組一覧をご覧ください

務課長	<p>ださい。</p> <p>教育委員会で取り組んでおります選ばれる山鹿として、全てが本市独自のものとは言えませんが、本年度の推進事業として、他に誇れる項目を整理させていただいたところ。事前配布につき、概略のみ説明させていただきます。</p> <p>まず、教育総務課の外国語指導事業等につきましては、いわゆる ALT の配置により、外国語教育の充実を図るとともに、学校教育指導員の授業づくりサポートによる教職員の指導力及び児童生徒の外国語力向上を図るものです。</p> <p>次の、学校教育推進事業は、教職員に対する ICT 研修を企画し、子どもたちが「学級で差を生まない」「学校で差を生まない」タブレット活用の取組などです。</p> <p>次の、不登校対策事業等は、教育支援センターの設置、サポートティチャーやスクールソーシャルワーカーの配置により、児童生徒の個に応じた丁寧な取組を行うものです。</p> <p>次に、5 ページをお願いします。</p> <p>インクルーシブ教育事業は、合理的配慮協力員の配置等により障がいの有無にかかわらず、児童生徒が同じ環境で教育が受けられ、生き生きと学習できる教育の充実を図る取組です。</p> <p>この他、記載はありませんが、新入学児童の支援としてランドセル贈呈や小規模特認校制度の充実に努めております。</p> <p>次に、学校施設課の安全安心な教育環境づくりは、令和 2 年度策定の長寿命化計画を基に、学校施設の維持管理・更新、防犯管理システムの導入、施設のバリアフリー化を進めるものです。</p>
-----	---

次に、社会教育課の生涯学習の推進は、受講者の生きがいづくりや地域づくりにつながるような生涯大学での講演、各種講座の支援を行うことで、地域社会に貢献できる人材を育成するものです。

次に、6ページをお願いします。読書活動推進事業は、移動図書館の運行や親子で読書を楽しむ環境づくりなど、読書活動のための環境整備や様々なニーズに対応できる図書の充実を図るものです。

次の、古代史巡回バス等は、郷土の偉人の足跡や貴重な文化遺産等について、現地をバスで巡り学ぶことで郷土愛や誇りを育み、山鹿の魅力を再認識するものです。

次の、山鹿創生塾は、各界でご活躍の本市に関係の深い方々を講師に迎え、中・高生を対象に講演、グループワーク等を行い、将来の山鹿を担い、山鹿を元気にする人材を育成するものです。

次に、7ページをお願いします。社会体育課のアクティブチャイルドプログラムは、遊びを通して幼少期から身体を動かす楽しさを知るために、小学生、保育園児等に対し、スポーツ・運動の習慣化に向けた取組みを行うものです。

次に、子ども課の予備保育士確保促進事業は、保育人材不足の中で、予備的に保育士等を雇用する園に対し、一部を支援することで、潜在的待機児童の解消につながるものです。

次の、保育環境充実支援事業は、老朽化した法人園舎等建設の費用の一部を補助し、園児の安全性の確保、保育環境の充実及び受け入れ態勢の強化を図るものです。

次に、本日配布資料の3ページをお願いします。

	<p>先ほど総務部長より説明があり、ご覧のとおり、令和5年度に教育委員会として、それぞれに取り組む事業も掲載しておりますが、新規事業のみ補足説明させていただきます。</p> <p>まず、アプローチ1、パーツ③の最下段、子ども課の保育所・認定こども園・幼稚園運営費の保育士等の人材確保事業は、公立保育園等の会計年度任用職員の有資格者について、処遇を改善し、人材確保を図ることにより、利用希望に応じ安定した園の運営に努めるものです。</p> <p>次に、アプローチ2、パーツ④の下から3行目、教育総務課の学校給食施設再編整備事業は、老朽化の進む給食施設への対応として、今後の児童生徒数の推移や財政見通しなどを考慮した基本構想を策定し、再編整備を計画的に進めるものです。</p> <p>同じく次の行、社会教育課の博物館管理費は、博物館整備に向け、市民ワークショップなどによる多様な意見を取り入れ、今後の施設整備の方向性を定めながら事業の推進を図るものです。</p> <p>次に、パーツ⑥の中ほど、社会教育課の文化振興費（文化振興基本計画策定）は、計画の策定により、文化振興に関する具体的な目標を設定し、本市の目指すべき基本的な方向性を示すことで、人と歴史文化が響きあうまちづくりの実現に寄与するものです。</p> <p>ほか、重点継続及び拡充の事業項目については、先ほど説明の、本年度の取組一覧と重複項目も含めご覧のとおりです。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
早田市長	いま説明がございましたが、山鹿の人口が予想していた以上に減っています。今

日の新聞に各自治体の当初予算が載っていました。荒尾市と山鹿市を見ますと、前は山鹿市の方が人口は多かったのですが、今は荒尾市が多くなっています。ただ、予算を見ますと60億円ぐらい山鹿市が多いです。それは合併して山鹿の方が面積は断然広いので、道路整備や上下水道整備などのインフラ整備をしていかなければならない、一方、荒尾市はコンパクトでそんなにお金はかからないので、その差だと思います。ですので、山鹿市の規模でこれ以上人口が減った時に住民サービスが維持できていくのが非常に心配なところなんです。とにかく5万弱の人口をどうにか維持していくことが大切ではないかという思いで、人口減少に歯止めをかける対策を皆で練っているところでございます。

その中で出てきた言葉が「選ばれる山鹿」です。とにかく山鹿に住んでもらう。山鹿を選んでいただく。その中で大きなことが「教育」だと思います。

私は他所に行った時にいつも話をしますが、山鹿の教育は学力も体力も平均点がトップクラスで、山鹿は住みやすいし教育もしやすい、不登校も他所に比べたら少ないということをPRさせていただきます。

いろんな方々に話を聞きますと、どこに住むかというのは仕事の場所などありますが、やはり教育です。教育がどうなのかということです。山鹿の教育はいいですが、高校になると優秀な子は外に出て行ってしまうという傾向もあります。それはこれから高校とも連携をしていかなければならないと思っています。

教育面で若い方たちにどうにか山鹿を選んでもらうという取組をどんどん仕掛けていきたいと思っております。

それからちょっとショックだったことが、数日前に職員の2年目から5年目の若

	<p>い職員にアンケート調査を行い、その中に10年後に山鹿に住みたいですかというアンケートをとったら半分は山鹿に住まないという回答でした。いろんな事情はあると思いますが、若い市の職員ですら10年後は半分の人が山鹿に住まないという現状でした。他の若い人たちも山鹿に残るのか出たいのかとなった時に、出たいという風潮があるのかどうか分かりませんが、そういうこともある気がしています。</p> <p>私も、これは反省してどうにか山鹿に住んでもらうために何ができるかを職員の皆さんと考えていかなければならないと思っています。</p> <p>そういう中で、教育というものは山鹿を選ぶ中で非常に大事な部分だと思っていますので、委員の皆様からご意見を聞かせていただければと思います。</p>
野口委員	<p>市民に留まってもらうことや、人を呼び込むためにどうするのかという話でしょうけど、まずは今、住んでいる人たち、或いは、その子どもたちが山鹿は良いということで、その子どもたちも山鹿に住んで、その子どもを山鹿で育てるという形にならないといけません。まっさらな人を連れてきてということは、なかなか難しいです。移住でいろいろされていますが、それはものすごく小さいコマです。今、住んでいる人たちが、やっぱり山鹿で子育てして良かったと言われる形に持っていかなければいけません。</p> <p>やはり安心して、子どもを産み育てられる環境をどうやって作っていくかだと思います。いろいろあると思いますが、例えば教育分野ではないので、そこはお任せしますが、素敵な市営住宅があるといいと思います。実は自分の近所の人たちも山鹿に無いから近隣の市町村の住宅に行っているという人もいらっしゃいます。もったいない話です。</p>

まずは、住まいを確保するということが大事ですが、これはここでの話ではありませんので、そちらはお任せするとして、その後、そこで安心して子どもを産んで育てられるかということです。ファミリーサポートなどをされていますので、こういう支援をやっているということや、一人で子育てをするのではなくて地域で一緒になって子育てをしていますということをもっとアピールしてほしいです。

学校教育に関しては、一番大事なことはいつも教育長がおっしゃいますが誰一人取り残さないということです。不登校ゼロも昔は言っていましたが、今は難しくなっていてあまり言っていないですが、不登校ゼロは非常に大事なことです。いつどんな形で子どもは変わるか分かりません。先生を経験されている方は分かっているかもしれませんが、私の身近な人にも、何であの元気な子が急に学校に行かなくなったのかという話が普通に出てくる時代なので、今まで一生懸命されている不登校対策を厚くフォローして、誰一人不登校の子が居ないような形にしていきたい。不登校ゼロも教育長になられた時に言われたと思いますが、その体制は大事だと思います。

市役所の職員が半分ぐらい出ていくのは、子どもが大きくなって教育云々ということがあると思いますが、その辺の話をしてもしょうがないので、じゃあ私たちは何がやれるかと言うと、授業についていけないような子どもを作らないこと。徹底してそこは底上げをする。その人たちは、それで社会に出たときにちゃんと社会で活躍できるような人材になるためには、基礎学力、基礎的な生活習慣を身につけないといけないと思いますので、特認校やオアシス教室などでフォローアップされていますので、その辺をもう少しアピールできないかと思います。

	<p>山鹿だったら子どもたちが楽しく学校に行けるという形を今いる親たち、今いる子どもたちが理解しないと次の世代に繋がっていかないのではないかと思います。</p> <p>いじめや不登校がなくて安心して学校に行ける。楽しく勉強できる。もう一步踏み込んで、親の経済格差に関係なく意欲のある子どもはいろんなことに挑戦できるようなお手伝いもしていくというところまで学校教育でやれたらいいと思います。</p> <p>社会教育も範囲が広くて大変で、高齢者の生きがいづくりなど大切なことありますが、人口減云々で言えば子どもを産んで育ててもらわないといけませんので、そういった意味で学校も教育をしていけばもうちょっと違うと思います。一生懸命されていますが、アピールするところがちょっと違うと思います。</p>
野中委員	<p>事前に資料が届く前に、今回はこうなりますよとお話をいただいた時から頭から離れないのですが、私たちはとかく都会の方のものさしでいろんなものを測って、それに追いつけ追い越せみたいな感じでいろんなことが進んでいるではないですか。多くがです。だけど山鹿は小さいから良いと思わなければいけない時期にきていると思います。</p> <p>例を挙げますが、私の住んでいるところは限界集落です。限界集落を漢字で皆さん書けると思いますが、私たちは限界集落を別の文字で考えています。限界のげんは元気の前、かいは快適の快、元気で快適に暮らせる集落であること。それを下中では求めています。そこから移住者を取り込んだりする発想や手立ても生まれてきています。教育も同じようなことがあると思います。私は割合、小規模校を回ってきましたが、一番考えていましたのは小さいからこそその力を生かす。学校は小さいけれど大きな教育をしたいと思っていました。</p>

山鹿市も同じだと思います。今は小規模ではない、頑張れているではなくて、気持ちはそうであってもこの規模だからできることというのを大事にしたい。売りにすべきは何なのかを考えたいということを思っていました。

具体的にどうこうというのは難しいところがあります。行政のことと、行政の中に教育は含まれていますが純粋に教育と言った場合には離れているからこそ不変性があります。教育を利用するのではなくて、教育はあくまでも離れて不変的な価値というものを追求していくところです。山鹿は教育にかける熱意もお金も出していると思いますし、事前にいただいていた資料でも分かる通り、他所よりもかなり力を入れてくださるようになったと思います。ただ最近ちょっと心配しているのは、最初に言いましたように子どもたちに本当に山鹿の良さを伝えているだろうかということです。山鹿の中でもどうしても周辺部からすると旧山鹿のほうを向きます。そして山鹿は熊本市の方を向きます。ついついそっちに目が行ってしまうことを我々がしているのではないか、もうちょっと地べたに目を向けたことをやっていかなければなりません。

学校も統合してしまっただんどん地域が寂しくなっていますから、余計にだと思えます。山鹿の良さ、都会の物まねでないもの、山鹿にしかないものを売りにしないといけないとけません。

私は田舎を売りにしたいと思っています。山鹿の町は都会化しているということ売りにするのではなくて、町は町でも都会に比べたら田舎ですね。

そして、子供たちにはバックボーンとなるものを育ててほしいと思います。スキルではなくて。それを強く感じたのがこの間のeスポーツの講演です。ああいうス

	<p>キルはいろんなところで触れさせていかなければならないので、余計子どもたちには地元の足元に咲く花であったり、水であったり土であったり、そういう物の価値を本当に教えているのだろうかと思います。気が付いたらそういうことを知らない子どもたちが育っていったら大変なことになるので、たくさんのスキルを与える場面と、義務制の学校の中ですることをもう一回見つめ直さなければならぬと強く感じます。</p>
堀田教育長	<p>冒頭に野口委員が言われた不登校をゼロにするということはまだ緩んでいません。日本一の学園都市やまがの第一の柱に不登校をゼロにするとあります。ただ、コロナ禍の中で少し難しくなってトーンダウンしていますが、これはおっしゃるとおり不登校がないということは学力も上がります。学校にもたまにしか来ない子どもたちが試験を受けて上がるわけがないのですが、そういうことを基本に毎日子どもたちが学校に来れるというスタンスだけはどうかしたいと思っています。どんなに世の中が変わってもこれだけは続けていきたいと思っています。</p> <p>他所に負けないところを各課から出してもらいましたが、PR不足だったということをお自身反省しました。ただ、どこまでPRできるかも判断が必要です。</p> <p>以前、山鹿中学校長最後の年にNPO法人に不登校をゼロにするという講演を依頼されました。最後に質疑応答の時間があって、すごく手が挙がりました。そういう山鹿だったら是非孫をやりたいという声が上がりました。もっとPRできればよかったのですが、教育長になって1～2年目はどんどん講演に行っていました。議会のほうからあまり外に出て行かないように言われましたので行かなくなりました。今後は元に戻して山鹿をもっとPRしていかなければならないと思っています。</p>

	<p>す。</p> <p>最後に、人口減少のスピードを抑制するためのパーツ②市外からヒト・モノ・カネを呼び込む取組ですが、人を増やすためにまずは山鹿の良さを知ってもらわないといけません。そのためには交流人口をもっと増やせばいいと思います。交流人口を増やす中で、温泉に浸かってもらって、やっぱり山鹿はいいと思ってもらえるようなことが先ではないでしょうか。いきなり住んでくださいではなくて、山鹿を知ってもらってもらうことが大事だと思います。</p> <p>もう一つは新聞にも載っていましたが中原君の千田小学校の記事がありました。この人たちは山鹿で生まれ育っていますので根っから山鹿が好きです。こういう力のある人たちが企業を立ち上げてくれるという方法もありますし、eスポーツの中島さんも山鹿のためには何でもやると言ってくれています。そういう人たちがたくさんいるので、きっとどうにかなると思っています。以上です。</p>
上田委員	<p>子どもたちが勉強がわかるとか、学校で楽しくて生き生きしているとか、そういうことがあれば親も嬉しくて元気が出ます。その元気を出させるためには先生たちの支援が必要です。何が必要かと考えると時間の確保が必要だと痛感しています。</p> <p>子どもたちがいろいろ悩みを持ったりしたときに、先生がじっくり聞いて相談にのってあげられる時間の確保とか、全ての子どもたちがよく分かるようにするための教材研究の時間の確保とか、そういうものがとても求められているのではないかと思います。山鹿市としてはサポートティチャー等を入れて支援をしていただいているところですが、もっとしていただきたいと思っています。</p> <p>それから先日、青少年健全育成大会がありましたけども、その時の全ての学校の</p>

生徒さんたちの発表を見て聞いて、山鹿の課題は何かということに気付いて、それを解決するためにどう考えてどう行動するのかを実際にやれる、行動に移せる子どもたち、それをたくさんの人前で堂々と発表していました。発表する力、広報力もあると感心して聞かせていただきました。ああいう力をどの子どもたちにも付けてあげたいと思います。学校も頑張っています。中学校は2年生が中心ですが2年生の段階であれだけやっているの、他の子どもたちも問題に気付いて、考えて、そして実際に人を動かしながら取組んでいける力を山鹿の子どもたちに付けていきたいと思いました。

もう一つ、市のほうで考えていただきたいと思いますが、先日テレビを見ていましたのが、北海道の厚沢部町というところで人口が三千ちょっとですが、保育園留学ということをやられていました。感心したのは保育園留学というものを立ち上げられて一カ月で50組ぐらい申し込みがあって、2022年12月までに114組、都市部から申し込みが来て、外国からはシンガポールやイギリスからも問い合わせがあったということです。

そこには親子で来られて子どもは地域の保育園に通って、親は用意された家でワーケーションをされます。何を子どもたちは学ぶかといいますと、食育や自然体験、園の子どもたち同士の交流と地域の人たちとの交流を大きな目的として、留学期間は1週間から3週間くらいあり、その方達の状況に応じてされています。いろんな体験をしながら親は家でパソコン等で仕事をしながら子どもと一緒にいろんな体験活動もできる。そこはジャガイモの収穫がすごいところで、一緒に収穫をしたりとか、雪遊びをしたり地域の自然に触れる機会が親子共にあったと。そして平均2

	<p>0万から30万円ぐらいは生活費として掛かるそうです。</p> <p>子どもたちは帰りたくないという子どももいて、そのまま移住する人もいます。移住まではなかなかできないけども第2の故郷として、そこに度々訪れて地域の方と触れ合いをしていますという話もありました。</p> <p>これは山鹿でも出来るのではないかと考えて見ていましたが、先日、熊日新聞にも載っていましたが天草がやっているそうです。ここも申し込みが殺到していて30組ぐらいで募集をしたけども最初は9組だったそうですが多くて今後は100組ぐらいを受け入れたいということで動いているそうです。その後、水俣市も動き始めたそうです。</p> <p>山鹿は、自然はいっぱいあります。山でも川でもいろんな体験ができますし、食物もいろんなものがあります。栗拾いでも椎茸とりでも苺摘みでも何でもあります。人も山鹿は温かい人が多いですから、仕組めるのではないかと考えたところでした。</p>
早田市長	<p>魅力的な取組だと思います。情報を仕入れて、先ほどの中原さんたちのグループとかにも相談したりするとプラスアルファで良い意見が出るかも知れません。是非、調査していきたいと思います。</p>
立山委員	<p>私も人口減少のことは毎日のように考えていますが、教育だけで人口減少をストップできるかという難しいと思います。県外に行ったときに熊本の山鹿市ですと紹介しますが、山鹿って何処って感じになります。福岡の八女市の隣ですという分かります。メディアでもいいので山鹿のPRをもっとしたほうがいいと思いま</p>

	<p>す。</p> <p>教育の顔は教育長にどんどんメディア等に出てもらいたいです。沖縄に行くと堀田教育長が有名人です。嬉しく思います。それで山鹿を知ってもらっています。宮古島が沖縄県で教育が一番になったのは堀田教育長のおかげだと噂になっています。メディア戦略が一番だと思います。教育だけでは難しいと思います。自分も畑を探して県外に出たりします。山鹿では規模が厳しいところがあります。</p> <p>ちょっと考えているのは、先日、大手の社長さんと一緒だった時に、山鹿灯籠をご存じでした。イベントごとは大事だと思いましたが、今後はスポーツイベント等に取り組んでいきたいと思っています。以上です。</p>
堀田教育長	<p>立山委員の言われたイベントということで考えていますのは、女性だけのマラソン大会を考えています。今年1年計画を練って、次年度に行いたいと思っています。これはかなりの経済効果が出ると思っています。川上優子さんがいますので、川上さんを中心として、トップは市長が山鹿の経済をよくするために行っていただきたいと思っています。女性だけのマラソン大会というのは全国であまりないので、かなりの経済効果があると読んでいます。いろんなイベントを仕掛けることで交流人口を増やし、山鹿を知ってもらうことにも繋がります。</p> <p>また、宮古島との繋がりは大きいと思っています。この間、子どもたちを連れて行って感想が上がってきていましたが皆、宮古島の自然に対して感激していました。ゆくゆくは教育だけではなくて宮古島と繋いでいただけたらかなりの成果が出ると思います。立山委員と考えているのは向こうからの留学生、こちらから宮古島に行く留学生を打ち出していこうかと考えています。以上です。</p>

早田市長	<p>宮古島の話が出ましたが、昨年12月向こうの市長に会いに行って話をする中で、今まで下積みをしていただいていたおかげで、向こうから姉妹都市を結びたいというお話をいただきました。幹部もいらっしゃる前で、来年度、結びたいというお話をされました。山鹿市としましても来年度、何らかの形で交流を始めさせてもらいたいという思いがございます。宮古島は非常に魅力ある町で観光面だと思いますが人も増えていますので、そういう伸びている都市との付き合いは大事だと思いますのでやっていきたいと思います。</p> <p>マラソン大会については、山鹿市は山鹿灯籠等で女性のイメージが強いので、女性だけの大会というのは山鹿をPRする売りになるのではないかと思います。</p> <p>ただスポーツばかりではなく文科系もあります。山鹿合唱団や山中、山小も全国大会に出て山鹿をPRしてもらっていますので文化系もしっかり力を入れたいということで、教育長とも話しまして組織編成で文化課を作るようにしたいと思っています。文化課の中でいろんなことをやっていきたいと思っています。</p> <p>それからよく言われますのが山鹿校区の方から公民館が無くなったものですから、公民館を建ててほしいということです。私が思っていますのは交流センターの使用料を値下げするか、無料にして使っていただくということです。新しく建てるよりも交流センターを有効利用してもらったほうがいいのではないかと思います。特に一つの例ですが合唱団が八幡の公民館で練習されていますが、改修されるので別の場所を探さないといけないとかピアノがあるところでないといけないということがあって、合唱団は全国大会に毎回出るようなところですので交流センターのホールを練習会場として使ってもらうことも考えていくべきだと</p>
------	---

	<p>思っています。文化系も同時に市民のために力を入れていきたいということをお願いしたいと思います。</p>
堀田教育長	<p>市長がおっしゃったように山小の八千代座公演というのはとても有名になりました。マスコミもたくさん載せてくれます。たしかに施設を有効活用させてもらうと教育委員会としてもとても助かります。山中の合唱コンクールも凄いです。保護者も入れて聞かせたいという思いがあって、交流センターを貸してもらえないかと学校から問い合わせもあっています。</p> <p>もっともっと施設を地元の子どもたちが有効活用できるシステムを作ってもらうと、もっとPRできると思います。</p>
野中委員	<p>田舎を売りにする、自然体験を売りにするというのも大事ですが、もう一方で先ほどスキルということでお話をしました。そういったところはある意味、最先端に持っていくことは可能かと思います。この間、eスポーツのお話がありましたけど、気になっているのは、スキルは使えてこそなんです。山鹿市は何年か前にRPAは導入されていますよね。</p>
大林総務部長	<p>実証実験でやりました。本格的に入れてはいるわけではありません。</p>
野中委員	<p>これが上手く入ってくると文書処理や特に1階部分でやっている業務が人の削減にも関係してきますが、入っていると思っていました。教育委員会と学校との関係でいろんな資料のやり取りやデータの処理をやっていますので、そういうことが上手くできますし、先ほどの教職員の時間削減にも当然結びついていくようにでき</p>

	<p>と思っていたのですが、本格的に導入したわけではなかったのですね。</p>
<p>大林総務部長</p>	<p>はい。R P Aにつきましては、宇城市さんなどが先進的にされていますが、R P Aをやる場合にはエクセルなどの表計算ソフトを使ってやりますが集計作業のミスが無くなることやスピードが速くなるなどの効果があります。</p> <p>ただ、R P Aの仕組み自体を職員が勉強して、どんどんプログラミングを使い易いように作っていくという作業に入っていかなければなりません。また、その研修も必要になってきます。それで必要性等を検証している段階で、本格的な導入は行っておりません。</p> <p>例えば、保育園や幼稚園あたりの入所希望がたくさんきます。第1希望から第3希望ぐらいまで取られると思いますが、いろんな要件もあって、今は職員が手作業で聞いて、何百人かの割り振りをやっていると思いますが、R P Aでやった場合には何分かですることができるという例もありました。ただ、件数自体が大都会のように何千件とある場合は別でしょうが、今はその中でも十分やれていると聞いております。</p>
<p>野中委員</p>	<p>チャットG P Tの話は上がってきていませんか。ああいうスキルは大人がまず、どういうふうに見えるか考える必要があるのではないかと思います。そういったことのアンテナを高くしておいて、教育とも関係してくるので学校にもスキルアップをさせていかないといけません。</p> <p>チャットG P Tは、要はA Iですね。この間、実際にやってみてびっくりしました。例えば、この読書感想文を書いてと言うと、見事に書いてくれます。だから、こういう文書にしても見解を問うと真っ当なことが返ってきます。もちろん当たり</p>

	<p>前すぎて、正論すぎてというのは、読んで自分のものと比較しながら修正して使わないといけません、ああいうものを使うとどれだけ効率化できるかと思います。</p> <p>学校も読書感想文や作文が書けてしまいますので、それを教師は読んだときにどう思うか。それを見抜く目を持っていないといけません。本当に読解力がついているか分かりません。</p> <p>日進月歩で進んでいくこういったスキルについては、我々もとことん勉強していかないといけません。だけどスキルはあくまでもスキルなので、そのベースになる田舎ならではの自然体験などを大事にしなければなりません。</p>
早田市長	<p>確かにおっしゃるように、今からの時代は英語を勉強しなくても、中国語を勉強しなくても、携帯でしゃべれば相手に伝わる話です。</p>
野中委員	<p>両方、しっかりやれるようにしておくことは選ばれる町としては大事だと思います。どっちかと言うとどっちかになりがちです。</p>
早田市長	<p>A Iでできないことは、昨日、野口委員のお孫さんが5万円寄付してくださいましたが、そういう人を助けるとか支えあう気持ちを持つ子どもたちを育てていかなければならないと思います。それには学校の先生も、我々もそうですが子どもと向き合うときに手間暇かけると言いますか、手間暇かけて育てるような山鹿の教育というのあっていいかと思います。</p>
堀田教育長	<p>教育のソフト面で行くと一番は子どもとの信頼関係が作れるか作れないかです。</p> <p>会議研修も大事ですが、それよりも子どもと触れ合うということを最初に立ち上げたのは山鹿でした。全国がこれをまねしました。これがだんだんおろそかになって</p>

	<p>きました。いかに子どもと触れ合うのが基本にあります。常に中心に子どもを据えるということが教育現場でおろそかになってきていると思います。</p> <p>何でも広く浅く行くよりも、狭く深く徹底して行く、それが特色として山鹿の教育としての売りになるかと思っています。</p>
野口委員	<p>先生たちの働き方改革からすると逆に動くかも知れませんが、山鹿市にいらっしゃる先生方は規模からすると少ないですね。その先生方一人一人の質を上げると言いますか、山鹿は凄い先生方がいらっしゃるよねというのも一つだと思います。</p> <p>私はいつも送ってくる算数部会の研修の結果などを毎回楽しみに見えています。ああやって先生たち同士が勉強会をされている、英語もされていますかね。</p> <p>当然、子どもと触れ合う時間も大事ですが、それぞれの先生たちの個人の力を上げていくことも大事だと思います。小さいから隅々まで行き渡るような気がします。こうやって先生方は勉強していらっしゃるのかと、本当に楽しみに見えています。</p> <p>そういう風土みたいなものを教育委員会が上手く育て上げられたらいいと思います。</p>
野中委員	<p>ここで話しているかわかりませんが、教育会館が無くなりました。山鹿市は教育会館を持っていないので、そこに行けば先生方がいつでも寄って勉強ができる、そこに行けば教育関連の新しい情報が得られる、そういう施設があって、例えば小さなコンサートができたり、発表会ができたり大げさなものでなくていいのですが、先生方との会議等ができる場所が造れないかと思いました。</p>
早田市長	<p>時間があっという間に経ちましたが、いろいろなご意見が聞けて良かったと思い</p>

	<p>ます。</p> <p>これで意見交換を終了したいと思います。</p> <p>その他で事務局から何かありますか。</p>
事務局	ありません。
早田市長	<p>それでは、本日は大変貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。</p> <p>以上で議事を終わります。</p>
徳永教育総務課企画係長	<p>本日の会議の全日程は終了いたしました。</p> <p>これをもちまして、令和4年度第2回山鹿市総合教育会議を終了します。</p>